

大学院医薬保健学総合研究科 創薬科学専攻（博士前期課程）

● アドミッション・ポリシー（アドミッション・ポリシー；AP）

本課程では、創薬科学分野の基礎から応用に関する幅広い知識と研究能力を兼ね備え、国際的視野を有する人材の養成を目的としています。特に、医薬品をはじめとする種々の生理活性物質を化学的、物理学的又は生物学的側面からとらえた教育・基礎研究を通して、創薬を含む生命科学全般に貢献できる優れた人材の育成を目指します。具体的には、製薬・化学企業における開発研究者・学術研究員・MR、公的機関での研究者、医療・厚生・薬事・環境等の分野での行政担当者などとして活躍する人材を育成します。将来このような分野での活躍を目指す意欲と資質を持つ学生を、出身学部を問わずに受け入れます。

入学者選抜の基本方針としては、一定レベル以上の学力（専攻学術および英語）を有し、将来、上記の分野で活躍することに強い意欲をもっていることを重視します。選抜は、基礎学力、英語能力、論理的思考力等を総合して判定します。

● カリキュラム・ポリシー（カリキュラム・ポリシー；CP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野（薬学、医学、保健学）における基礎から応用に至る幅広い知識と研究能力の醸成を達成するため、階層化と複線化を施したカリキュラム構成を採用しています。階層化の面では、2年間の修学期間において、「導入」から始まり「基礎」・「発展」・「先端」の順に講義科目群が配置されています。一方、複線化の面では、「化学系」・「生物系」・「薬剤系」・「環境・分析系」の4つの分野を横断する科目群が「基礎」以降に配置されています。これにより、学生は、徐々に修得程度を高めるとともに、初期には幅広く学び、専門分野を定めた以降は特定分野での最先端の知識を学ぶことができます。また、専門英語科目ならびに英語での授業科目によって国際的視野を醸成します。さらに、専門を定めた後でも、分野横断型科目を履修することにより、専門分野の知識と理解を広げることが可能です。これらの科目群の履修により深めた知識をもとに、「実践」科目においては専門分野における演習と研究に取り組み、特定の課題について研究成果を挙げて学位論文を作成します。

● ディプロマ・ポリシー（ディプロマ・ポリシー；DP）

本課程では、薬学を中核に据えた学問分野における基礎から応用に至る幅広い知識と研究能力を獲得するとともに、国際的視野を有した学生を修了させることを目的としています。それを達成するため、講義科目群の履修においては、試験による修得度の判定が行われます。さらに、研究能力の修得を判定するため、「実践科目」においては研究成果を記述した学位論文（修士論文）の作成を義務付け、その内容とともに公開での口頭発表と討論が審査されます。これらすべてに合格した学生に、修士（創薬科学）が授与されます。